

国史跡

鳥坂寺跡

と
さ
か
で
ら

鳥坂寺の実像に迫る

河内国御智識寺南行宮己酉天皇幸智識
山下大里三宅家原鳥坂等六寺礼仏庚戌
遣内舎人於六寺誦經儼施有差壬子大雨
賜河内国諸社祝祢宜等一百十八人正稅
各有差是日行至難波宮御東南新宮三月
甲寅朔太上天皇幸堀江上乙卯詔免河内

7世紀から8世紀にかけて、柏原市には多数の寺院がありました。中でも有名なのは、奈良時代の歴史が記された『^{しよくにほんぎ}続日本紀』(表紙)に登場する「^{かわちろくじ}河内六寺」です。

「河内六寺」とは、天平勝宝8歳(756年)、孝謙天皇が平城宮から難波宮に向かう際、^{ちしきじみなみあんくう}智識寺南行宮に泊まり参拝した、**三宅寺、大里寺、山下寺、智識寺、家原寺、鳥坂寺**の6つの寺院を総称したものです。鳥坂寺は、その中で一番南側にあり、奈良から流れる大和川がちょうど北側に曲がる一際高い丘の上に建っていました。

生駒山地に沿って南北に通じる後の東高野街道、平城宮と難波宮を結ぶ洪河道や竜田道などの街道は多くの人で賑わい、また大和川には、様々な物資を運ぶ船が行き交っていました。大和川をさかのぼるにつれ遠くに見えていた河内六寺が次第に迫り、山裾に並び建つ寺院や、船上から仰ぎ見る鳥坂寺の様子は、非常に荘厳な景色だったに違いありません。



空から見た柏原と古代寺院 (『昭和60年度撮影 国土画像情報(カラー空中写真) 国土交通省』を基に作成)

1925 大正14年から1926 昭和元年に、大軌電車桜井線(現 近鉄大阪線)の工事が行われ、鳥坂寺跡周辺から多くの瓦などが見つかったとみられますが、その記録は一部しか残されていません(①)。1929 昭和4年に線路東側のブドウ畑から発見された「^{しび}鷓尾」(6ページ)によって、鳥坂寺は一躍注目される遺跡となりました(②)。

しかし1961 昭和36年、周辺を住宅にする計画が持ち上がります。その時の発掘調査によって、天湯川田神社境内から**塔跡**(③)、線路を挟んだ東側に**金堂・講堂跡**(④)が見つかり、それらの遺構は、非常に残りの良い状態だったことから、開発の計画は中止され、地下に保存されることになりました。その後、周辺の調査で**僧房・食堂跡**と『鳥坂寺』と墨で書かれた**土器**(5ページ)が見つかり(⑤)、北東側の斜面に**建物群**があることも分りました(高井田遺跡 A~E)。

平成21・22年には鳥坂寺跡の保存のための再調査が行われ(⑦~⑨)、金堂の南側で**大規模な造成**がされていることや、金堂を囲む**回廊**などが新たに確認されました。



記号	調査期間	調査主体	調査報告書	調査成果
①	1926.11.21	森下悦治	河内高井田出土「足駄」に就て 考古学雑誌第18巻第6号	大軌電車桜井線(現 近鉄大阪線)敷設時に発見された遺物およびその出土状況について報告
②	1929.6.24/26	大阪府史蹟調査委員会	大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告 第1輯	発見された鷓尾と出土状況の報告
③	1961.8.10~8.30	山本 昭(柏原中学校)	河内高井田・鳥坂寺跡	塔に伴う地下式心柱礎石、雨落溝を確認
④	1962.11.12~12.13	大阪府教育委員会 奈良国立文化財研究所	河内高井田・鳥坂寺跡	金堂跡基壇、講堂跡礎石群を確認
⑤	1983.5.23~1984.3.31 1984.4.2~8.13	柏原市教育委員会 柏原市教育委員会	鳥坂寺-寺域の調査- 鳥坂寺-寺域の調査-	寺域整地層、建物群、「鳥坂寺」墨書土器を確認 寺域整地層を確認
⑥	1989.7.31~8.22	柏原市教育委員会	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 1989年度	雨落溝の一部を確認
⑦	2009.9.14~2010.4.26	柏原市教育委員会	鳥坂寺跡発掘調査報告書	金堂基壇北面階段と講堂礎石の再検出 北面回廊(西部)の礎石を確認
⑧	2010.6.28~8.30	柏原市教育委員会	鳥坂寺跡発掘調査報告書	金堂基壇南面階段・礼拝石・塔雨落溝の再検出 金堂前面(中門跡?)の整地層を確認
⑨	2010.11.1~12.2	柏原市教育委員会	鳥坂寺跡発掘調査報告書	回廊東北隅の礎石(北・東面回廊の交点)を確認

調査位置図と調査一覧表

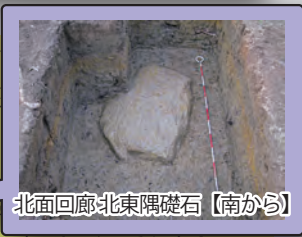
は史跡指定地(2012.1.24)

寺院の主要な建物である塔・金堂・講堂などの位置関係を「伽藍配置」といいます。河内六寺の中で、伽藍配置や関連する他の建物が調査で確認されているのは鳥坂寺だけです。

回廊 金堂を囲むように造られていた廊下です。見つかった礎石や礎石を抜き取った穴の状況から、回廊の北側では、東西 3.2m(コーナー部分では 3.6m)、南北 3.6mの間隔で礎石が置かれていたことがわかりました。

塔 仏舎利(釈迦の遺骨またはその代用品)を祀るための建物で、一辺 8.66mの基壇の三重塔と推定されています。基壇自体はすでに失われていたましたが、塔の中心の柱を支える礎石(心礎)や、基壇周囲を巡る雨落溝が見つっています。

中門 詳細不明ですが、調査で金堂南階段より南の地点に溝が見つかりました。中門に関連する遺構の可能性がります。



講堂 僧が勉強する建物で、基壇は東西 32.3m、南北 20.3m、高さ約 50cmと推定されています。礎石のほとんどが、当時の位置のままで見つかり、また建物中央には、須弥壇が造られていました。

須弥壇 仏像を安置するためのもので、凝灰岩で造られています。南側に幅 4m ほどの階段があります。

僧房・食堂 僧が生活する僧房(南北 26m以上 × 東西 4.7m)、食事をする食堂(南北 15.2m × 東西 10.4m)は、金堂から谷を隔てた南東の場所に建っていました。いずれも地面に穴を掘って、直接柱を立てた掘立柱建物で、周囲には柵の跡や井戸なども見つっています。



この土器は市の指定文化財なんだ

金堂 本尊を安置する寺院の中心的な建物です。基壇は東西 18m、南北 15m、高さは推定 1.4mで、地面を掘り込み、そこに加工した凝灰岩を据えて基壇を造っています。基壇の上にあった建物の様子は不明ですが、礎石とみられる石が見つっています。また金堂の南側では、石を多く含む盛り土で斜面を埋め立て、地面を平らにしていたことが確認されました。

須弥壇写真…大阪府教育委員会 1968『河内高井田・鳥坂寺跡』より

しび 鴟尾 建物の屋根の大棟両端に付ける飾り。瓦ぶき屋根の頂点に据えられた一対の鴟尾は、寺院の象徴といえます。鳥坂寺では、5種類ほどの鴟尾が見つかっています。

鴟尾 A 1929 昭和4年発見。下半部がほぼ完存し、正位置で埋没していることから、一時的に屋根から降ろした、あるいは一度も使用することなく放置された可能性があります。現在、復元され、東京国立博物館に展示されています。



鴟尾 A



鴟尾 A の復元模型
(柏原市民歴史クラブ製作)

高さ 1.4m ほどになるこの鴟尾がわたしたちのモデルね



鴟尾 B



鴟尾 C 鴟尾の頂部の破片で、上端が階段状になっています。



鴟尾 C' C と似ていますが、段の向きが異なります。



鴟尾 D

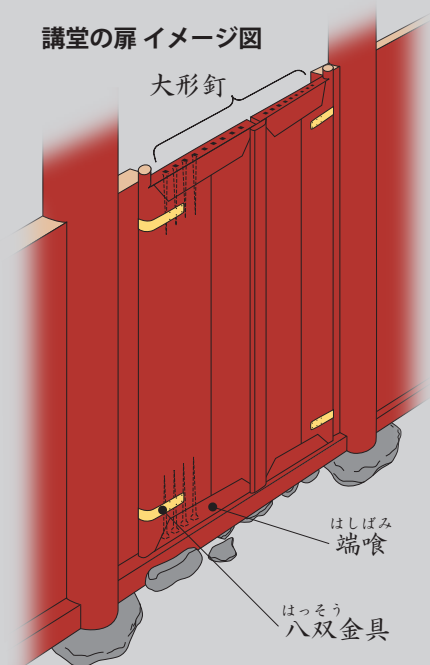


鴟尾 D' D に似ていますが、D にはない縄叩き目があります。



鴟尾 E 見つかっている鴟尾では最も古いタイプです。

講堂の扉 平成 21 年の再調査の際、講堂中央背面の礎石付近から、石組とともに多数の鉄製品が見つかりました。出土位置や形状などから扉の軸を補強するための八双金具と、扉の上下にある端喰を扉板に固定するための大形の釘と考えられます。



八双金具と大形釘

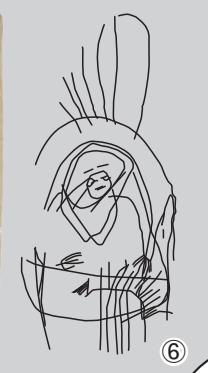
八双金具は幅 7.5 cm、長さ約 40 cm の U 字形で、大形釘は長さ 38 ~ 48 cm、太さは約 2.5 cm あります。

所蔵・保管…鴟尾 A：(原品) 東京国立博物館 (模型) 柏原市教育委員会
鴟尾 C・D：大阪府教育委員会・奈良文化財研究所
鴟尾 B・C'・D'・E、扉金具：柏原市教育委員会

鴟尾 A 出土状況…大阪府 1930 『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』第一輯より

大きな釘!

瓦 最も多く出土する遺物です。特徴的な瓦として、蓮華文様のある軒丸瓦 (①~③)、弧状の線のある軒平瓦 (④・⑤) や、仏像が描かれた平瓦 (⑥)、文字が書かれた平瓦 (⑦) などがあります。



⑥



「ア」は「部」の略字だが、「飛鳥」は後の「飛鳥」(あすか)のことで今の柏原市国分あたりを昔は「ア」呼んだんだ。

玉作ア 飛鳥評
[たまつくりへ 飛鳥評]

⑦

土器 瓦の次に多く出土し、三彩陶器 (⑧)、土師器の皿、黒色土器などがありますが、ほとんどが小さな破片となっています。また金堂南側の盛土の中から古墳時代前期の埴輪の破片 (⑨) が見つかることから、金堂の近くに古墳があった可能性があります。

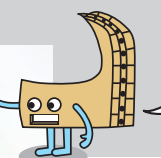


⑧



⑨

埴仏 粘土を焼き固めて作られたもので、講堂の須弥壇付近から見つかりました。堂内の壁や、須弥壇を飾っていたものとみられます。高さ 10 cm ほどで、⑩・⑪とも同じ型で作られていますが、下端の形状が異なり、⑩は「飾る」、⑪は「持ち運ぶ」と用途が違っていたのかもしれませんが。また表面には漆を塗り、金箔を貼り付けていた痕跡があります。当時の人々の「祈り」を今に伝える貴重な遺物です。



当時の人は何をお祈りしてたのかな?

⑩

⑪

所蔵・保管…①・②・④・⑥・⑦：大阪府教育委員会・奈良文化財研究所
⑩・⑪：大阪府教育委員会
③・⑤・⑧・⑨：柏原市教育委員会

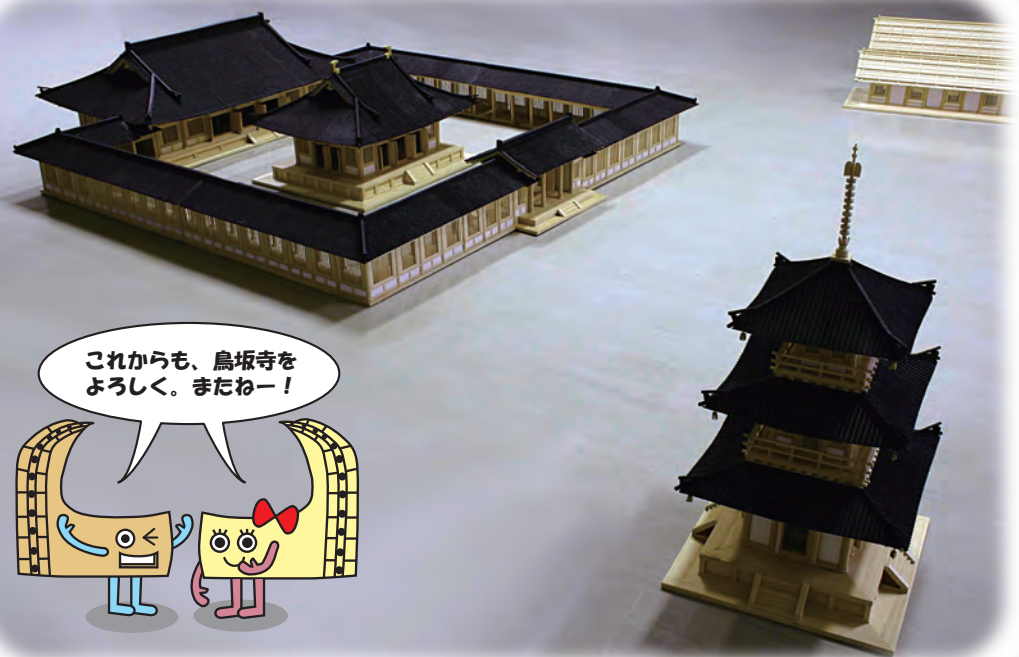
7世紀後半とされる鳥坂寺の建立には、仏教を厚く信仰し、私財や労働力を提供する「知識」と呼ばれる人たちが大きく関与したと考えられています。鳥坂寺の「知識」には、有力者で天湯川田神社に祀られている「鳥取氏」や周辺で暮らす民衆が加わり、鳥坂寺は信仰のシンボルでした。河内六寺のうち智識寺はもちろん、残りの4つの寺院も「知識」が関与した可能性があります。仏教に熱心な地域だったからこそ孝謙天皇やその父である聖武天皇も、たびたび柏原の地を訪れたのでしょう。

しかし10世紀頃になると鳥坂寺は廃絶してしまい、その存在や名前は人々から忘れ去られていきました。それから1000年以上の時を経て、鳥坂寺は発掘調査によって再びわたしたちの目の前に姿を現しました。

「鳥坂寺」墨書土器の発見で寺名が改めて確認され、金堂の基壇や階段の状態は、全国的に見て他に例がないほど良好なものでした。

平成24年1月24日、鳥坂寺跡の歴史的・文化財的な価値が高く評価され、国の史跡に指定されました。鳥坂寺は仏教にかかわった当時の人々の思いや、柏原の歴史を知るための手がかりを与えてくれます。再び灯った古代の光を、現代で絶やすことなく市民のみなさんと一緒に未来へ繋げていきたいと思います。

編集・発行 柏原市教育委員会 文化財課



柏原市市民歴史クラブ製作の 1/30 伽藍模型